

					2学期末	1学期末	
7	特別活動(学校行事、生徒会、学級会、学級活動)での話し合い活動を進めている。	5	14	2	0	90%	94%
8	課題発見、解決型の総合的な学習を進めている。	6	12	3	0	86%	89%
9	一人一人のよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている。	6	14	1	0	95%	100%
10	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進している。	2	8	9	2	48%	56%
11	生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している。	0	14	6	1	67%	50%
12	一人一人が所属感・存在感をもてるような学級経営の工夫により、生徒が充実した生活を送っている。	2	19	0	0	100%	100%
13	学級活動等の活性化により、生徒の主体性の育成を目指している。	3	17	1	0	95%	94%
14	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている。	5	15	1	0	95%	100%
15	道徳で培った道徳的判断力や行動力を、生徒の生活や他の教科の中で生かそうとしている。	4	12	4	1	76%	89%
※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策							
9	総合は特別活動でも道徳でもありません。1から6の間に入れるべき項目。						
10	生徒会を軸として、地域活動の展開方法を模索していかないとこの項目はいつまでも伸びません。自治会の地域清掃などをお手伝いするような、新たな活動に自らの意思で参加できる体制作りが必要です。						
15	道徳の授業を自らやったことがなく、まだ経験不足です。その授業を生活や強化にどのように生かすかは、他の先生方の授業を見せていただきながら研究していきます。						
3	学年はこれまでの積み上げた土台の上に共に学ぶ場面が至るところで見られる。他にも広げていけばと思う。						
15	各学年で道徳を行っている学年、行っていない学年で差があるように感じる。意見を述べ、考えを深めるためにであり、必ず取り組まないといけない授業である。						
15	道徳をもっと充実させていきたい。授業内容の精選もしっかりしたい。						
12	月ごとに自分の目標掲示物として貼っているが、クラスの係の仕事の責任や達成感をもっと持たせたい。						
13	学級会や部会等の活動が学年によって違うので、ある程度生徒の実態によって変える部分はあっても、形は統一した方が良いと思う。						
9	太陽学級の一人一人、卓球部の一人ひとりにできるだけ声をかけてきました。成功体験、努力したことが少ない子が多いのです。一人一人、やったことを問いかけ、自信を持たせるように努力してみました。						
15	今年度から初めて道徳の授業をしているが、とても難しく感じる。1学期は主に他者理解をテーマにやっていたが、それに結びつけた生活での指導はまだまだであると感じる。						
※2学期を終えて							
10	その母体を生徒会本部とし、生徒の自由意志で参加できるスタイルを追及していくべきです。現在は部活単位が多く、地域活動(自治会行事等)とも有機的に繋がっているとは言いがたい状況。地域のために布佐中がやれることはまだまだたくさんあるはずです。						
7	特別支援が主なので、話し合い、課題発見は難しいのですが、やり方によっては決して不可能ではないと思います。						
8	3学期に向けての課題です。						
10	吹奏楽部、郷土芸能等も活動は活発ですが、その他もう少し工夫して外に出る活動があっても良いかと思えます。時間が無いのはわかりますが。						
13	学級・学年差をどう解決していくかが課題になると思います。						
15	各学年道徳を行っているか、疑問。3年は基本的に道徳の授業を行っている。私自身、道徳主任としての仕事を怠っている部分もあるが、各学年どれほど道徳をやっているのか知りたい。						
13	学級活動では学級掲示物を作ることがあった。生徒に自主的に作らせることで、学級環境を生徒自らがつくるようできた。						
15	道徳の授業をもっと行わなければならない。						
15	道徳で培った力を教科の中で生かし切れていない。この力を生かせる内容、授業展開を考えていく。						
8	古都学習等、総合で学んだことを実地検証として修学旅行等で深めることができた。						
15	週1回の道徳の授業がなかなか実践されていないのが現状。						

					2学期末	1学期末			
言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かし・人を育てる（職員・生徒）	生徒指導・教育相談・長欠対策	16	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	13	10	0	0	100%	100%
		17	生徒に自律的な規範意識を育てるよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	6	14	3	0	87%	95%
		18	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	10	12	1	0	96%	95%
		19	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	7	12	4	0	83%	95%
		20	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの言動に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	7	14	2	0	91%	95%
		21	社会の一員としての意識（公平・公正・勤労・モラル等）を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	4	18	1	0	96%	95%
		22	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	6	10	3	0	84%	100%
		23	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	10	13	0	0	100%	95%
		※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策							
	23	いじめがない学校、そのためには常に生徒に寄り添い様子を見ていくことがいじめの早期発見対応がされると思います。							
		子供たちに寄り添う指導のできる教師集団なので、それぞれの先生の得意な関わり方を活かすことが大切だと思う。							
	16	多くの職員で情報を共有できていると思う。							
	20	生徒会活動がこども中心に行えていることに誇りを持っているように感じる。そのような気持ちを多くの場面で味わわせたい。							
	16	クラスで問題が起きた時、生徒指導と連携し、素早く対応できた。学年の問題も1学期は多かったが、情報の共有をすることができた。このまま2学期も早期対応していく。							
	23	生徒の報告や相談を一つ一つ親身に聞き、組織で解決ことができた。							
	16	常に生徒の情報交換を行っており、生徒指導の時に役に立っている。							
	19	今学期はできるだけ、相談室に足を運び、相談室登校の生徒と関わりを持つように心がけた。担任と生徒の架け橋になれるようにするとともに、生徒との信頼関係を築き、授業や教室に顔出せるようにしたい。							
※2学期を終えて									
	17	「自律的な規範意識を育てる」部活指導の基本は何か。考えを共有するの必要を感じます。							
	16	特別支援学級においてもいくつか生徒指導上の問題が発生しましたが、担当職員の連携で迅速に対応でき、少しずつではありますが前進していると思います。							
	19	長欠生徒とどう関わっていくのか。相談室や保健室、個別対応教室の授業担当と担任の連携がさらに深められるように情報交換を活発にしたほうがよいと思います。							
	19	相談室に通っている生徒との関わる時間を多くとりました。一人ひとりいろいろな悩みや葛藤があります。いろいろな先生と関わり、その子の存在を認めてあげる機会が増えると良いなと思います。							
	16	生徒指導部との連携を密にして、早期解決に努めた。							
	16	今年度、生徒指導する場面がたくさんあり、そのたびに先生方と共有、保護者への連絡とたくさんの経験ができた。							
	16-23	今後も学年の先生方の動きをよく見て、多くのことを勉強させていただきたいと思います。							

						2学期末	1学期末			
言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かし・人を育てる（職員・生徒）	健康管理・安全管理	24	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	4	17	2	0	91%	95%	
		25	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	5	16	2	0	91%	84%	
		26	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	2	17	3	1	83%	70%	
		27	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	1	13	8	1	61%	50%	
	※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策									
		27	PTA活動の内容を十分に理解できていない。							
		25	自身が把握できていないので、情報をしっかりと収集して管理していく							
		27	日常生活に追われ、PTA活動の内容がしっかりと把握しきれいなかったので反省点である。							
		24	遅刻や食事を抜く生徒にはその都度規則正しい生活習慣の大切さを指導している。							
	※2学期を終えて									
			保健室からの情報を具体的に子どもたちに伝える場を増やしたい。							
		27	職員にまでPTAの諸活動が伝わってこないような気がします。							
		24	部活動、朝の会、帰りの会をはじめ、手洗い、うがいや健康的な食生活を指導しているが、生徒が実行しているかわからない。							
		26	これらのことをよく理解していないので、計画内容を知る必要がある。							
								2学期末	1学期末	
特別支援教育	28	特別な支援を必要とする生徒に対して、授業の中で配慮を行っている。	10	9	3	0	86%	100%		
	29	特別支援教育のための校内委員会が機能し、個別の支援を進めている。	5	12	5	0	77%	83%		
	30	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成しようとしている。	6	12	3	1	82%	94%		
	31	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉（児相など）関係機関との連携を図ろうとしている。	4	12	5	1	73%	89%		
	32	特別支援学級の生徒との交流学習を図っている。	8	10	3	1	82%	85%		
	※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策									
		29	発達障害のある生徒にとって必要であり、他の子があると便利な工夫を増やしていく。授業に対して困難を感じる生徒をできるだけなくし、わかりやすく参加しやすい授業を計画していきます。							
		29	ユニバーサルデザインの3つの柱の1つである資格を意識されている先生が少ない気がします。授業の流れを可視化することが少ない気がします。							
		32	個人的には授業は持っていないが、空き時間などに関わるようにしている。							
			特別支援の生徒が学級に入っているが、トラブルが時々起きてしまっている。しっかりと配慮した対応していきたい。							
		28	太陽の授業の場合、例えば数学では4人の描く力が大きく違います。4種類の違ったプリントが必要だと感じます							
		32	特別支援学級の子も交流学級の子との関係が大切です。交流可能な限りすすめるのが大切だと感じています。							
		31	学校では限界があるので、関係機関との連携は必要である。							
		28	支援学級の授業をしていくうちに、普通学級における支援が必要な生徒のことが今まで以上に目が届くようになり、指導することができる機会が増えた。また、誰にでもわかるような明確な指示を出すことの大切さを改めて感じた。							
	31 32	特別支援学級の生徒の実態がわからず、あまり関わりを持てませんでした。積極的に関わっていこうと思います。								

※2学期を終えて	
28	今年度、初めて特別支援を担当し、1学期は試行錯誤でしたが、2学期、一人一人に違うプリントを用意したり、個人の状況に合わせて指導することができたと思います。
28	特別支援学級の授業でその子にあった課題をしっかりと考え、取り組ませることができた。
33	学級に所属している特別支援の生徒がいるかどうかで大きく異なる。いない学級は関わりがないのでは？
30	特別支援に関しては、何とかやっけてはいるが、十分なものではないと思う。特に個別支援計画は初めての仕事できちんと生徒の実態をとらえずに作っているようにも思う。現に指導法について保護者に不安をさせてしまったりしている点からしっかりと考えて作っていききたい。
28	可能なら、数学以外でも取り出し授業を行えたらやっていきたい。
29	ユニバーサルデザインの考え方をもっと理解し、個別の対応を工夫しなければと思っているが、勉強不足です。

						2学期末	1学期末				
言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かし・人を育てる(職員・生徒)	研究と修養	33	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	7	13	1	0	95%	90%		
		34	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	6	11	4	0	81%	89%		
		35	コーチングスキルを積極的に用い、生徒に自己決定させる場面を意図的に設けている。	4	12	5	0	76%	80%		
		36	ファシリテートに努力し、授業の中でワークショップ等の形態をとり、言語活動充実のための取り組みを行っている。	4	15	2	0	90%	85%		
		37	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	4	11	5	1	71%	60%		
		38	小中一貫教育の推進に向けて、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	3	12	6	0	71%	50%		
		※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策									
		37	連携一環の必要性は現在のところ全く浸透していない。その子供たちの学力をどう高めるのか。地域の課題として、学校のみでなく、布佐の町全体が認識し、街とともに学校発展させようとする気運が必要である。								
		37	小中一貫の目的を全職員が理解しないとその場限りの表面上のものになってしまう気がする。なんでもかんでも、小中を交流させることが一貫教育だとは感じない。								
		35	どうしてもこちら側が先に動いてしまうことがあるので、子供たちに自己決定させる場面をつぶしてしまうことがあった。2学期はそういうことがないようにしたい								
34	まだまだ不十分だとは思っていますが、特別支援担当の教員3人で、毎日何度も話し合いをしました。私も特別支援は初めてですが、気が付く事はH先生にアドバイスしました。H先生も4月に比べ、大きな成長を見せています。若手はまず任せてみる。そして先輩がアドバイスしていく。その中でぐっと伸びていくと感じました。										
	校内研での生徒役の研究はとても有意義である。										
36	昨年度よりもファシリテートに対する理解が深まり、いくつかの場面で実践することができた。特に授業では、よく発言する生徒にだけ止めず、交通整理をするようにしてより多くの生徒に発言の場を与えることができた。										
36	まだよくつかめていないので研修をしていきます。										
※2学期を終えて											
36	ふさカリキュラム学習プログラムの更新が必要。										
37	一貫教育はあくまで分離。カリキュラムを繋ぐというコンセプトを貫く。そのために小中とともに小の小の連携が大前提。英語科の兼務発令と布佐中区小中一貫の整合性を図るべき。										
32	もっと特別支援の授業を見学するなり、親学級の先生は様子を見に来てもらいたいと思います。										
33	教科を超えての校内研修は非常に勉強になる。特に学活や道徳の校内研修をもっと行っても良いと思う。										
36	学び合いの学習を取り入れようと努力しているが実験以外の方法で取り入れた回数がまだまだ少ない。もっと生徒主体となる授業展開をしていきたい。										
37	小学校で授業をやらせてもらいたかったが、もっと小学校の実態を知りたいので授業を見に行きたい。また、小学校の先生も見に来ていただけるとありがたい。										
36	授業の中でのワークショップを実践し、生徒の言語活動の充実を図ることが不十分であるため、ワークショップ等ができる内容を取り入れ、実践していく。										
34-37	必要性を感じながらも積極的にはかかわれなかった。										
38	特別支援学級のMさん、Sさんの保護者とは数多く話し合いの機会を持ちました。その中で相互の信頼が出てきたように思います。また、部活動ではHさんの保護者が支援によく来てくれたので、何回も話し合いをして、人間関係を深めました。数多く会って話をすることが原点だと思います。										
34	布佐中学校は多くの研修があり毎回とても勉強になります。これからもいろいろな研修から自分でできることをどんどん身につけて行きたいと思いました。										

					2学期末	1学期末		
言語活動の充実・共生的な態度・組織・学校情報の広報 (職員・生徒)	39	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るよう努めている。	5	16	1	0	95%	85%
	40	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	5	16	1	0	95%	90%
	41	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	5	17	0	0	100%	90%
	42	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	2	13	7	0	68%	80%
	43	HP・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	6	15	1	0	95%	85%
※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策								
	43	ホームページで更新したい事は全教員もできるのでしょうか。ホームページに関してよくわからない教員が多いと思います。						
	43	自分が発行できていないので迷惑をかけてしまっている。						
	40	1年目と言うことでコミュニケーション不足の分が少しあった。自分から声をかけて意思疎通をしっかりと行って行きたい。						
	43	学級便りは子供たちの良いところをたくさん見つけ、定期的に発行できた。もう少し多く発行すべきだったので、2学期は計画的にする。						
	40	小さな学校なので学年を超えての声かけはできていると思う。						
	40	「太陽」には2年生と1年生がいるが、その学年のスケジュール等の情報を共有することが不足しているため、何をしたいのかわからない。不明な授業の時もあった。お互いにもっと情報の共有に努めたい						
※2学期を終えて								
	40	課題を生徒が見つけ、改善できるように手助けすることが我々の役目だと思う。教員がただ課題を述べるだけでなく、生徒自身が気づけるよう声かけをしていきたい。						
	42	学級だよりははじめの頃は出せていたものの2学期はほとんど出せなかった。簡単なものでも良いので生徒の活動を定期的に届けられたと思う。						
	40	教師間の連携を図り、学年や学級で起きた課題について早期対応できるようにする。コミュニケーションを密にとり、学年や学級の変化に気づくことができるようにする。						

- PDCAサイクルの中の「自己評価」の位置づけと活用を図るには・・・
達成率(3.4評価の割合)が80%以下の項目についての改善策
各分掌、学年、学級で具体的な取り組み改善計画の立案と実践
- 職員の「協働」のための大切なツールとしての活用
各項目の評価と自由記述内容についての分析 活用
こういう考えがある・・・こういう相違点がある、共通点は・・・方向性の確認と実践